

かぜであそぶ

四国中央市のおやこアート体験事業ドキュメント

2024 年 11 月 24 日

美術講師 松岡美江

自然界のエレメント = 自然の5要素 地・水・火・風・空のうち 第二弾として風をテーマに見えないものを感じながら、体験する体感遊びのような自然体感型アートワークショップです

準備物

透明シート・大判セロファン類・紙類・すずらんテープ・ハサミ・テープ・扇風機

テーマ

- ・色んな素材を通して風を感じる
- ・風のドームの製作を楽しむ

午前の部 10:00 ~ 12:00

午後の部 13:00 ~ 15:00

かぜはなぜふくのか？どこからきてるんだろう？風をみたことある？などと風ってなんだろうを入りに、前半は実際に外の風に触れ、様々な素材を使って風遊びを行い、次に遊んだ素材を使って親子で製作を楽しみました。出来上がった巨大ドームの中で扇風機の風を使った風遊びを行いました。

かぜってなんだろう？

簡単に言うと空気の移動を風といいます。空気の押す力のことを“気圧”といいます。また、押す力が強い方を“気圧が高い”といい、押す力が弱い方を“気圧が低い”といいます。気圧という言葉を使うと、風が吹く仕組みは「気圧の高い方から低い方へ、空気が押し出されて風が吹く」となります。また、地球の回転、地形の効果などが加わると複雑な風の動きになります。(参考：気象庁)



ナイロンや紐がたくさん！
どんな風に使おうかな？



大きなドラ
ゴンみたい
だね！



ぐるぐるに
巻きつけて
みた！

風で遊ぶの
素材は色ん
なもので遊
び方にも発
展しました！

風をよんで
みるかな？
ミシングは？
いるかな？
は？



かわいい虹
色ステッキ
に♪



綺麗な丸が
描けたよ！



風揚げみた
いなのが出
来た！

風揚げのよ
うに立ちま
わって風を
待たせよう
としてみた
ら、風がそ
れぞれ出た
りしました！

まずはながーく色んな素材を出してみ
て、素材と触れ合う遊びを行いました。
徐々に風を使った遊びに変化してい
き、素材をぐるぐると回してみたり、全
力で走ってみたり、体全身を使って風
をつかまえていました。



徐々に簡易的な製作を行う姿がみられ、紐とポリ袋で風揚げのようなものが出現したり、虹色ステッキや空飛ぶ絨毯など、遊び方に色んな設定が織り込まれたような作品が見られました。

かぜであそぶ

四国中央市のおやこアート体験事業ドキュメント

2024 年 11 月 24 日

美術講師 松岡美江

②



2 チームに分かれて合同で製作スタート！まずは大判のシートをホール全体ほどの大きさに繋ぎ合わせて下地を作っていきます。

ロールを持つ人、押さえる人、ハサミでカットする人など分担をして進めていき、小さなお友だちにやり方を伝える場面もみられました。



大人たちも一緒に頑張って頑張りました！



長いテープを扱うのは難しいね！

チームごとにどのくらいの大きさにするか、どんな手順で行うか相談しながら、難しい部分は大人や上級生たちが先頭に立ち、小さい子たちのサポートをしながらグループの中で進めていきます。



細かな仕掛けがいっぱい！



ベースができると、全体を装飾していきます。風によって楽しめるような仕掛けを各々工夫し、長いひらひらをつけてみたり、穴を開けて別ルートを作ってみたり、それぞれの場所を一枚の絵のように仕上げる子たちもいました。



みんなが持っている方法などをふんだんに使って飾ってくれています！



細かな表現を最後まで時間いっぱい丁寧にやり切りました！



お手伝いに来てくれていた高校生を中心に、年齢が高い子たちは全体を見渡しながら足りない部分を補ったり、修正箇所を見つけてくれたりチームの柱としてたくましい姿がみられました。



小さな子たちも周りの影響をたくさん受け、普段なかなかない異年齢の交流が製作を通して相乗効果を生み、学び合い、助け合いが生まれていたことが印象的でした。



最後に 2 チームのシートを合体させ、まずは大きな一枚へ。最終的に筒状にし、巨大なドームに仕上げました。



秘密基地みたいだね！



特等席発見！風が気持ちいいね！



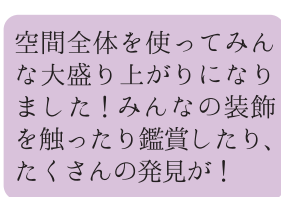
みんなの飾りがいい感じ



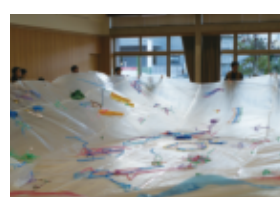
寝てみるのが一番最高！



大きな大きな不思議な空間。飛んだり転がったり、自分がリラックスする姿へどんどん変身！



空間全体を使ってみんな大盛り上がりになりました！みんなの装飾を触ったり鑑賞したり、たくさんの発見が！



大人も入れるほどの大きな空間に！



作る時も遊ぶ時も色んなアイデアが飛びかいます！



子どもの遊び方は無限！

シンプルな素材から子どもたちはどんどん遊び方を発展していき、いく通りものの使い方が生まれていきます。スタートが難しい子も周りの子たちからたくさんの影響を受け、「はじめて」を見つけ、「はじめて」に挑戦していきます。「実験」のようにこうかもしれないを試し、失敗しても、たとえ丁寧でなかったとしても、その一瞬一瞬のひらめきや瞬発力は今後の様々な場面で生かされていくはず。やってみてできなかったことや難しかったことをそっとサポートしながら、柔軟な製作の中から技術などの側面も少しずつ身につけられるといいなと思います。



午前部



午後部